



菊池 敏行 議員

社会福祉協議会の 今後は

【質問】 社会福祉協議会は従来の地域福祉事業と併せ、さまざまなサービス事業等に取り組んでおり地域福祉の重要な役割を担っていると思われる。社会福祉協議会は、他の事業所と違い市内全域を対象に事業を行い、また引き受けなければならない組織と考える。現在、運営補助の見直しをしているようであるが、自助努力はもちろんだが、市は社会福祉協議会の位置付けをどう考えているのか。

【市長】 今回の介護保険制度改正でも介護予防にシフト転換され、老人保健においても「健康な65歳」から「活動的な85歳」に目標が変更された。これまでの社会福祉協議会の老人保健事業の実績を活かし、行政と一体となって介護予防事業の推進に取り組んでいただきたいと考えている。

【質問】 平成17年より八幡住宅の建て替えが始まっており、現在高齢者用のグループホーム的な住宅建設計画があるのか。また、八幡住宅の建て替えは地域のこれからの活動に大きな影響があると思われるが、現在の入居者はもちろん、地域の住民にも説明が必要ではないか。

【市長】 高齢者用のグループホーム的な住宅の建設は高齢化社会が進展する中、今後材木町地区や稲荷下地区にも市営住宅の建設を予定しており、その中で検討する。また、地区の代表者、入居者及び地域住民に対し、住宅や道路計画、管理体制、さらには既存の住宅の今後の整備等について、説明会を開催する予定である。

【その他の質問事項】

- ・地域が家族いつまでも元気ネットワーク構想について
- ・総合型スポーツクラブの現状と今後の考え方について



八幡住宅の建て替え工事が始まっている



細川 幸男 議員

農家の所得向上 について

【質問】 今年度の米の減反割り当ての影響について

【市長】 18年産米の生産目標数量は、昨年より439 t少ない11,217 tが遠野市に配分された。作付面積にすると85ha減少するが、昨年過剰米出荷した分が作付けカウントされることから、実質57haの減にとどまり、昨年実績のとおりであれば12ha余裕のあることになる。

【質問】 ポジティブ・リスト制度への対応は万全か。

【市長】 遠野市が生産した農産物から基準値以上の残留農薬が出ないようにJ A生産部会の指導等により周知したい。

【質問】 ブランド化についての農業活性化本部（アスト）の考え方は。

【市長】 地元で評価され、多くの消費者に認められて確立することから、地場産物の見直しと遠野の自然環境で育て上げた個性のある農産品を目指し、遠野ブランドの確立のために全力で取り組む。

【質問】 農家の所得向上について伺う。

【市長】 新しい販売方法をJ A遠野を中心に、アストの仕組みの中で検討し、従来の市場出荷を見直し、販売のチャンネルの多様化を図る。ほうれんそうの共同調整の実験、集出荷代行を18年度に始める。

【質問】 市民所得と市職員所得の格差をどのように感じているか。

【市長】 市民の大方が市職員の給料は高いと思っているという事を職員一人ひとりが、まじめに受け止めて日常業務を行うように心がけているはずである。今後行財政改革を進める中で職員数も削減し、管理職手当や特殊勤務手当等についても見直しする。

【質問】 予算委員会での職員答弁は万全と考えているか。

【市長】 市職員の人材育成基本方針を策定し、これに基づいて職員研修を充実していく。いずれ、職員は漫然と仕事をするのはなく、危機感をもって職務遂行にあたるよう今後とも指導する。